



経営者・従業員の為の

健康ひとくちメモ

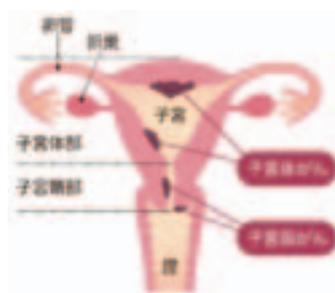
(公財)福井県健康管理協会 県民健康センター 臨床検査技師

四宮 美佐子



子宮頸がん検診 ～細胞診とHPV検査～

子宮には体部と頸部があり、一般的に子宮がん検診とは、頸部を調べる子宮頸がん検診の事を指します。



細胞診

従来の子宮頸がん検診は細胞診で行われます。細胞診とは、子宮頸部の表面を、ヘラやブラシでぬぐい、細胞を顕微鏡で見ると、がんや前がん病変を発見する検査です。検査は1分程度で終わり、個人差はありますがそれほど痛みもありません。

新しく登場したHPV検査

近年、HPV（ヒトパピロウイルス）の感染が、子宮頸がんの原因であることがわかってきました。HPVは半数以上の女性が一生に一度は感染する

というごくありふれたウイルスです。感染しても、免疫などにより多くは自然消滅しますが、感染が持続すると異形成、がんへと進展していきます。

そのHPVに感染しているかどうかを調べるのがHPV検査です。HPV検査は、細胞診と同時に進行事ができます。

HPV検査で陽性、又は細胞診で要精検と診断されたら

HPV検査での陽性という結果は、ウイルスに感染しているという診断ですが、子宮頸がんということではありません。細胞診が要精検の場合も、子宮頸がんとは診断されたわけではありません。細胞に変化があるかどうかを組織の一部を取って調べる精密検査を行い、変化が無ければ経過観察を、変化があれば程度に合わせた治療をします。

これからの子宮頸がん検診

自治体が行う住民検診や、健康保険組合が行う職域検診での

子宮頸がん検診は、細胞診で行われ、福井県ではHPV検査による検診は行われていません。医療先進国の欧米では、HPV検査が積極的に推奨されていることもあり、今後は多くの自治体に広がることが期待されています。

細胞診でASC・US（軽度扁平上皮内病変疑い）の診断が出た場合や、症状がある場合にはHPV検査に保険が適用されます。

がんで苦しまないために

子宮頸がんは20代～30代が増えており、細胞診で異形成または初期のがんで見つければ、子宮を全部取ることなく治療する事ができ、妊娠する事も可能です。さらにHPV検査では、がんのリスクがあるかどうかを知ることができます。

子宮頸がんは早期発見が重要です。少なくとも2年に一度はがん検診を受けることを心がけ、自分の体と向き合いたまう。